

F-18 明治以降における家政に関する教育の発達について (オノ報-2)  
東京家政学院 大家政 手塚六郎 中村ヨシ 亀高京子 ○熊田知恵  
板谷麗子 三東純子

目的 オノ報-1と同じ

方法 オノ報-1にふいてとり上げたものと同じ著書について、被服の部分に当時の家政についての基本的考え方との関連において検討し、また、内容を現在の被服学の分野別に準じて分類し、当時の風俗・習慣・衣料事情などと関連づけて考察した。

結果 1)被服については大体、衣服の事、裁縫の事、洗濯の事、の順序で述べてある。その分量は異なるが、内容については、衣服に対する考え方、材料、衣服の日常の取扱い方、裁縫に対する考え方、裁縫上の注意、洗濯の方法、洗濯用剤の種類と用法、などで、いずれも共通しており、大同小異である。2)現在の被服分野における内容や取扱い方と比較すると、衣服は身分や職業によって異なること、衣服に関する仕事は女子のものであること、絹物の洗濯方法について詳しいこと、和服の縫い直しについて取扱っていること、洗濯用剤として天然のものが多く用いられていること、などのちがいが見られる。3)衣服の種類、各部の名称その他の用語に我国古来のものと新しく輸入されたものがあると、用法に混乱がみられる。4)作業衣の用い方、縫い直しなどに関連づけて儉約の必要性を説き、事例を示しているものが多い。